



# 放課後子ども総合プラン施設の整備・統合・改修について

## I 児童館・児童センターの子どもプラザへの再編・統合について

### 1 施設再編(統合)の必要性と方針

#### 1 施設再編(統合)の必要性について

##### (1) 公共施設マネジメントに基づく施設更新の方向性

- 長野市公共施設マネジメント指針 **児童館・児童センターは**、登録児童数が増加する場合には、小学校の余裕教室等を利用した「子どもプラザ」への移行や、**小学校施設、他の公共施設との複合化を検討**する
- 長野市公共施設等総合管理計画 (児童館・児童センターの再編) **小学校区ごとに、施設の集約化などを検討**する。**老朽化した既存施設の更新は単独で行わず、複合施設とすることから、施設の利用実態や運営方針を踏まえ、複合化や多機能化を検討**する。

##### (2) 利用児童の安全確保

###### 施設への移動時のリスク管理の必要性

- 児童館・児童センターは主に**低学年が利用**
  - ・ 特に1年生は学校での授業終了時間が早い



学校から施設までの**移動(通所)時には様々なリスク**  
交通事故の発生／児童が狙われる事件の危険／中山間地域での熊、猪などの有害鳥獣との遭遇 etc…



**小学校からの移動距離が長い施設、交通量の多い道路を横断する施設は早急に対策が必要**

<学校からの距離・築後年数>

施設名	建物構造	学校からの距離(m)	築後年数	備考
日詰児童館	W	1,900	47	R2年度耐震改修
若槻児童館	W	1,300	48	H26年度耐震改修
箱清水児童センター	S	900	39	
松ヶ丘児童センター	S	800	37	幹線道路横断
柳町児童センター	S	700	38	R3年度未廃止
柳原児童センター	S	650	32	踏切横断
川田児童館	W	450	44	R2年度未廃止
吉田児童センター	SRC	400	23	踏切横断
古里児童センター	S	350	38	幹線道路横断
加茂児童センター	S	350	20	幹線道路横断
浅川児童センター	S	250	38	幹線道路横断
古牧児童センター	S	200	23	

## 2 児童館・児童センター施設の再編(統合)方針

### (1) 統合可能な施設

児童の安全確保を最優先として、小学校で利用可能な余裕教室等が確保でき次第、小学校内の子どもプラザへの統合を進め、児童館・児童センターの廃止を検討する。

コスト効果・・・児童館・児童センターの維持管理費 1,503千円／年が削減できる見込み

### (2) 当面、統合が困難な施設

施設が損傷していたり、定員を大幅に超えた利用となっている施設で、小学校に余裕教室等の確保が困難な場合は、小学校への多目的室等の追加整備や小学校に隣接する代替施設の整備を検討する。

## 2 これまでの主な再編・統合の経過

年度	校区	対象の児童館・センター	内容
平成30～	鍋屋田	長野中央児童館	統合
	芹田	芹田児童センター	学校敷地内に多目的棟新設
	真島	真島児童館	統合
令和3～	朝陽	朝陽児童センター	学校敷地内に多目的棟新設
	川田	川田児童館	プラザを新設しすべてを移行
令和4～	城東	柳町児童センター	統合
	豊野東	豊野東部児童館	統合
	城山	箱清水児童センター	4年生をプラザへ移行
	古里	古里児童センター	3年生をプラザへ移行
	柳原	柳原児童センター	2年生の一部をプラザへ移行
	通明	篠ノ井中央児童センター	2年生の一部をプラザへ移行
	綿内	綿内児童センター	3年生をプラザへ移行

### 3 再編・統合を進めるに当たって

- ◆ 次年度の余裕教室確保など再編・統合の条件を整えたうえで、次年度の利用者募集にあたっては、前年10月までには保護者あてに再編・統合の内容を周知する必要がある。
- ◆ 統合・再編によって、子どもたちの居室環境が悪化することの無いよう、余裕教室が特別教室の場合等は**エアコンなどの環境整備が不可欠**である。



翌年度の夏季までに確実にエアコンを整備するために、前年度の9月補正予算措置、債務負担行為(0市債)の活用など、整備に向け、有効なあらゆる手段を検討する。

### 4 一部の児童館の業態の見直しについて

- ◆ 児童館は、「**18歳未満のすべての子どもを対象**とし、地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操を豊かにすることを目的とする施設」(厚労省「児童館ガイドライン」)とされている。
- ◆ 本市で児童館は、**放課後子ども総合プラン事業においてほぼ独占的に利用**されている。
- ◆ みどりのはがきでは、**雨天や冬季などの子どもの遊び場を増やしてほしい**との意見が多く寄せられている。



駐車場を備えた交通の便が良い一部の児童館などに「児童館職員」を配置し、プラン事業で利用する以外の時間帯に一般市民が予約無く利用できる体制を整備する。

#### 1施設当たりの概算コスト(年額)

人件費:時給990円(支援員と同様)×3時間(9時~12時)

×210日(月~金、ただし学校休業日等を除く)×2名=1,250千円

光熱水費(約3万円/月、プラン利用実績)+備品・消耗品=500千円

**合計=約1,750千円**

## Ⅱ 令和2年度 基準超過施設への対応

令和2年12月 信濃毎日新聞

- ◆ 児童数増加により面積基準(1.65㎡/人)を満たさない施設に関する記事
- ◆ 篠ノ井中央児童センター、古牧児童センター、古里児童センターの3施設

### 1 篠ノ井中央児童センター

R2年度	児童一人当たり 区画面積 1.55㎡(×)	➡	R4年度	児童一人当たり 区画面積 1.70㎡(○)	◆小学校のパソコン教室をプラザ居室として新たに確保し、過密を緩和
見込み /方針	特別支援学級の増加は懸念されるものの、全体の児童数は令和10年に向けて減少傾向であり、夏季等に南部図書館2階や篠ノ井交流センターを利用するなどして当面の過密を回避する。				

### 2 古牧児童センター

R2年度	児童一人当たり 区画面積 1.61㎡(×)	➡	R4年度	児童一人当たり 区画面積 1.81㎡(○)	◆小学校の児童会室をプラザ居室として新たに確保し、過密を緩和
見込み /方針	児童数は令和10年に向けて増加傾向であり、予断を許さない状況が続く。隣接する社会体育館の空き時間を有効活用することを前提に、センター遊戯室を居室化(エアコン設置)し、過密を解消する。				

### 3 古里児童センター

R2年度	児童一人当たり 区画面積 1.53㎡(×)	➡	R4年度	児童一人当たり 区画面積 1.93㎡(○)	◆小学校の特別棟1階の被服室及び調理室をセンター居室として新たに確保し、過密を緩和
見込み /方針	児童数は令和10年に向けて増加傾向であり、予断を許さない状況が続くため、更なる居室確保に向け、小学校と特別棟2階教室の利用調整を継続する。				

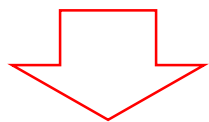
### Ⅲ 児童館・児童センターの施設改修について

#### 長寿命化が必要な施設等の改修方針

##### 個別施設計画の再検討について

個別施設計画において、建物の対策については、機能の方向性、建物の状態などに応じて、建物の対策を「長寿命化」、「事後保全」等の各区分に分類している。

このうち、「長寿命化」、「転用」施設の長寿命化のための改修工事については、目標使用年次の使用年度までの間、竣工後20年、30年、40年、60年を目途に「長寿命化のための改修工事」を実施するとしている。



しかしながら、児童館・児童センターについては、児童数の減少見込みから、必ずしも計画通りに長寿命化することが適切でない可能性がある。

そのため、施設の改修等の方針について、上記工事時期が近付いた段階で、より詳細な改修方針を改めて検討し、必要に応じて当初の改修方針を見直すもの。

#### ○長寿命化の対象施設(築後年数35年以上/単独施設)

施設名	構造	築後年数	備考
浅川児童センター	鉄骨造平屋建	40	R5プラザ統合予定
南部児童センター	鉄骨造平屋建	39	
松代東条児童センター	鉄骨造平屋建	38	
川中島児童センター	鉄骨造平屋建	38	R8プラザ統合予定
湯谷児童センター	鉄骨造平屋建	37	
徳間児童センター	鉄骨造平屋建	37	R6 調査 R7 設計

#### ○長寿命化の対象施設(築後年数15年以上25年未満/単独施設)

施設名	構造	築後年数	備考
綿内児童センター	鉄骨造平屋建	22	
松代花の丸児童センター	鉄骨造平屋建	21	R5 中規模改修
青木島児童センター	鉄骨造平屋建	19	R5 中規模改修
三本柳児童センター	鉄骨造平屋建	18	
豊野西部児童センター	鉄骨造2階建	17	
共和児童センター	鉄骨造平屋建	17	

## 例1 徳間校区

## 1 徳間小学校 児童数・学級数の推移

(R4 学校教育課調べ)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
児童数	619	602	605	599	583	582	(585)	(589)	(578)	(566)	(561)
学級数	19	19	19	19	18	18	(19)	(19)	(19)	(19)	(19)

当面、児童数の大幅な減少は見込めず、余裕教室の確保は困難

## 2 改訂版人口ビジョンにおける地域別の年少人口推計(令和4年2月改定版)と徳間校区児童推計

	2020年	2030年(2020年比)		2040年(2020年比)		2060年(2020年比)	
市街地周辺地区	26,376人	21,913人	83.1%	19,002人	72.0%	15,720人	59.6%
児童数	599	498		432		358	
(見込み)学級数	19	① 15.79	② 13.70	11.35			

①約10年後(2030年)には、少なくとも1~2程度、②約20年後(2040年)には、2~4程度の学級数減の見込み。

## 3 徳間校区 余裕教室のプラザ利用による施設定員推計 (センターを廃止し、プラザのみの利用とした場合)

		2020年	2030年	2040年	備考
登録児童数(A)		275人	249人	216人	
施設定員数(B)		296人	221人	259人	
(徳間子どもプラザ /徳間小学校内)	施設面積	301.69㎡	364.69㎡	427.69㎡	2030年 +1教室 2040年 +2教室
	定員数*	182人	221人	259人	
定員の過不足(B-A)		21	△28	43	

⇒直近5年間は予断を許さない状況が続くが、その後は徳間児童センターで最低15年間(合計20年間)、一定規模の児童を受け入れできれば事業継続可能。



# 徳間児童センター 施設改修方針(コスト比較)

	案1	案2	案3
内容	・現センター <b>長寿命化</b>	・現センター <b>廃止(解体)</b> ・現センターと <b>同規模の新施設</b>	・現センター <b>事後保全</b> ・現センターの <b>半分規模の新施設</b>
概算費用	<b>【改修経費】</b> ・構造耐久性調査委託(R6) 概算委託費:1,000千円 (公マネ算定) ・工事実施設計委託(R7) 概算委託費:15,510千円 (建築課算定) ・本工事(R8) 概算工事費:125,878千円 (R5類似施設実績) 計 <b>142,388千円</b>	<b>【新施設 建設経費】</b> 265㎡の多目的施設 A 軽量鉄骨構造 (@約406千円/㎡) ⇒ 107,590千円 B 軽量鉄骨構造+プレハブ工法 (@約350千円/㎡) ⇒ 92,750千円  <b>【新施設 解体経費】</b> ・解体工事 概算工事費:5,000千円  計 A 112,590千円 B <b>97,750千円</b>	<b>【新施設 建設経費】</b> 165㎡の多目的施設 A 軽量鉄骨構造 (@約406千円/㎡) ⇒ 66,990千円 B 軽量鉄骨構造+プレハブ工法 (@約350千円/㎡) ⇒ 57,750千円 <b>【新施設 解体経費】</b> ・解体工事 概算工事費:5,000千円 <b>【現センター 事後保全経費】</b> 修繕費(見込み) 5,000千円 <b>【2センター運営によるランニングコスト増】</b> 光熱水費 2,000千円/10年 (他の案と比較して増加する分のみ) 計 A 78,990千円 B <b>69,750千円</b>
	※現センターの解体費用はどの案も発生するため、考慮しない。		
コスト評価	× ・最も工事費が高い。 ・余裕教室増の恩恵を受けられない。 ・将来的には過剰な施設となる。	△ ・工事費は中程度。 ・新施設解体までは余裕教室の活用を想定しない。	◎ ・工事費は最も安い。 ・余裕教室を最大限に活用。 ・現在の過密状態の解消に最も早く対応できる。

※案1～3のほか、費用対効果によっては、現センターの当面の維持を目的とした、中規模改修工事も選択肢となり得る。

## 例2 青木島校区／例3 松代校区

### 1 青木島小学校 児童数・学級数の推移

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
児童数	603	616	595	604	636	(628)	(600)	(570)	(538)	(490)	(431)
学級数	20	20	20	20	21	(21)	(20)	(19)	(18)	(16)	(14)

・R4 学級数21 ⇒ R10 学級数14 にまで減少(7学級減)

		R4	R5	R8	備考
登録児童数(A)		241人	251人	215人	
施設定員数(B)		379人	215人	253人	
(青木島子どもプラザ ／青木島小学校内)	施設面積	355.65㎡	355.65㎡	418.65㎡	R8年 +1教室
	定員数*	215人	215人	291人	
定員の過不足(B-A)		138	△36	43	

⇒青木島児童センターの施設改修方針

中規模改修を実施せず、事後保全により施設機能を5年程度維持し、青木島子どもプラザ(小学校施設)に居室が確保できた段階で用途廃止(解体)する。

### 2 松代小学校 児童数・学級数の推移

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
児童数	278	285	270	270	256	267	(262)	(256)	(269)	(257)	(250)
学級数	11	12	11	11	11	12	(12)	(12)	(12)	(12)	(12)

・当面、児童数の大幅な減少は見込めず、余裕教室の確保は困難

・長期見込みから、約10年後、約20年後に若干の学級数減少が見込まれるが、直ちに余裕教室が発生するとは 言えない。

⇒松代花の丸児童センターの施設改修方針

予定どおり、築20年目途の中規模改修を実施する。築30年目以降の改修工事については、その時の児童数の状況を踏まえ、改めて実施を検討する。